

(公開学習Ⅱ) 第1学年 B組 音楽科学習指導案

指導者 横地 美奈

場 所 音楽室

1. 題材名 「イメージがもたらす音楽の秘密(仕掛け)を探そう」

2. 教科・題材で提案する「やりくり」とこれまでの概要

本校に赴任した2年前は、コロナ渦の真っ最中だった。コロナ渦で歌えない、演奏できない、という従来の授業を変えざるを得なくなり、非常に戸惑ったのは私だけではなかったと思う。しかも、赴任したばかりで生徒の現状や様子もわからず、何をしたものか考えあぐね、実態調査をした。すると、本校は様々な小学校から入学していることもあり、小学校での学習内容にかなり差があり、音符の長さや階名を全く習っていないまま授業を受けている生徒もいた。そこで、歌わない、演奏しない、言葉をなるべく発しないのできる授業として、「音符を読む」ことに力を入れ、「楽譜が読めるようになったら、音楽の楽しさや表現力に深みが増す」という仮説をたて、実践してみることにした。そして、小学校2年生の音符の長さから学習を遡って学習してみた。すると、楽譜が読めるようになったことで「合唱の時音程がとりやすくなった。」という感想や、「家のピアノで好きな曲を弾いてみることができた。」などの感想が挙がり、ここ2年継続してみて、楽譜が読めるようになったことで音楽への興味が高まった生徒が増えていた。

私を感じる音楽の面白さの一つに、「楽曲分析」がある。楽譜を読み解いていくと、作曲者のたくさんの仕掛けが出てきて、面白さが増していく。作曲者の思いや背景、人生観がさえ現れてくる。そして、音楽の表現に深みが増していく。

音楽の学習で、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の全ての領域から作曲者の仕掛けを探っていくことを毎年積み重ね、知識という素材を増やし、表現していくことを繰り返していく。本校の研究における「やりくり」は、「素材が増えれば増えるほど幅広く独創的な『やりくり』に発展していく」と私は考える。まず、その手始めが「楽譜を読む」という学習である。そして、楽譜から気付いたことを共有し、自分の考えを伝え合うことにより、より深い学びへと発展していく。この2～3年かけて最終的には「校歌」にいきついてみようと考えている。身近な歌である「校歌」には、在籍する生徒へのメッセージが込められている。それを受け取ることで、愛校心と郷土を愛する心がより強く育つのではないかと考える。

3. 授業構成

(1) 教師と教材

アニメやドラマ、映画には必ずバックミュージックがついている。それらは、なにげなく耳に入っているが、心を揺さぶり、雰囲気盛り上げる。鑑賞の授業は、「楽曲分析を通して作曲者の心に触れる」とその曲への興味が増すと思う。作曲者は何を伝えたかったのか、それは何故なのか、楽譜には作曲者の思いと、それを盛り上げるための仕掛けがちりばめられている。楽譜からそれらを読み込むことで、作曲者からのメッセージを直に受け取り、感じ、感性がより磨かれ、表現がより豊かになっていくのではないかと考える。3年間のテーマとしては、「雰囲気を盛り上げるための作曲者の仕掛けを探そう」を挙げて

いるが、それは鑑賞だけではなく、歌唱や器楽、創作の全ての教材で積み上げていく。

本題材は、1年生の鑑賞の授業の1時間目で扱う。1年生にとっては、初めてとっていい鑑賞の授業である。映画音楽である「ジョーズ」のテーマを題材とし、「音楽を形づくっている要素」である「音色、リズム、速度、音の高低」をキーワードとして分析していく。そこに、作曲者であるジョン・ウィリアムズがどのような仕掛けをして映画の内容を盛り上げているのかを探していく授業である。

本題材は、学習指導要領の以下の点を主とする学習である。

B 鑑賞（1）ア（ア）鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

イ（ア）曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

【共通事項】 ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

教科書にも載っているように、キーワードをもとに分析していく学習は当然のこと、さらにこの授業では、実際に映画の一部分を見せて、曲を変えて比較するという内容を取り入れてみた。比較することによって、より作曲者の仕掛けの効果と音楽の力を実感させたい。

（2）子どもと教師

前述した通り、本校は附属小学校と公立小学校の生徒が在籍し、小学校での学習内容はかなり異なっている。1年生は、まず、音符の読み方を学習した。そして、簡単なリズム譜は読めるようになった。まだ授業時間数がそんなになく、コロナ渦ということもあって、合唱や器楽には取り組めてない。また、外部講師の先生による琴の授業なども入り、時間数滴に楽譜を読んでいくという学習には現在至ってないので、これから積み重ねていくところである。しかし、学習への意欲は高く、発言も活発に行うことができ、その発言によって内容が深まっていく。今回は鑑賞の入り口なので、「探す」「発見」という面白さを味わわせたい。

（3）子どもと教材

「映画音楽」は子どもをわくわくさせ、非常に身近である。今回は、初めての鑑賞の学習なので、「ジョーズ」という非常に緊迫感が伝わりやすい音楽を使って子どもの興味を引きつけたい。低音から不気味に始まり、何か恐ろしいことが起こる前触れのような始まり、そして心臓の鼓動を感じさせるだんだん速くなるリズム、金管楽器や打楽器の打撃音の効果的な使い方、高音のヴァイオリンの流れるような音楽、

など、音楽を形作っている要素を知覚し、音楽が様々な要素の変化によってイメージを盛り上げる効果を出していることに気付かせたい。そして、普段の生活の中で、今まで何気に耳にしていた音楽に改めて耳を傾け、音楽を鑑賞することの楽しさ、喜びを味わわせたい。

4. 題材目標

○曲想と音楽の構造とのかかわりについて理解する。【知識及び技能】

○音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わって聴く。【思考力・判断力・表現力等】

○音楽から得られるイメージと音楽の特徴との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

5. 学習計画（全2時間）

第1時 曲を聴き、音楽を形作っている要素と結び付けながら、気付いたことを伝え合う。同じ画面で曲を変えて鑑賞し、比較する。（1時間）・・・[本時1／2]

第2時 その他の映画音楽を聴いて、音楽を形作っている要素と結び付けながら作曲者の仕掛けを探し、好きな曲を選んでプレゼンする。（1時間）

6. 本時について

（1）本時の目標

音楽のイメージと音楽を形作っている要素との関わりを感じ取り、その効果に気付く。

（2）期待される生徒の様相

A より具体的な楽器名を挙げ、その効果について深く想像し、心情と関わらせながら具体的に言葉で表現し、伝えることができる。

B 全てのキーワードをもとに、効果について気付き、ワークシートに記入することができる。

C 強弱、速さ、音の高低などのキーワードをもとにいくつか違いがわかり、ワークシートに違いを書くことができる。

(3) 学習の展開

学習活動	留意点 (・) 評価 (※)
1 本時の目標を知る。	・大テーマは「作曲者の仕掛けを探そう」と伝える。
イメージがもたらす音楽の秘密（仕掛け）を探ろう 2 ジョーズのCDの最初の部分を聴き、抱いたイメージを伝える。 ・怖い ・何かが追いかけてくる感じ ・緊迫感がある。 3 作曲者について知る 4 5つのキーワードをもとに曲を分析し、イメージとどうつながるか考える。 〈強弱〉 ・弱い→強い（サメの遠近感） ・強弱の差が激しい（緊迫感、焦り） 〈速度〉 ・ゆっくり→速い（サメの遠近感） 〈リズム〉 ・長い音→だんだん短くなる （サメの遠近感、心臓の脈） 〈音の高低〉 ・低音から始まり、途中で高い音が出てくる。 （サメの遠近感、海の深さ、不気味） 〈音色〉 ・打楽器の打撃音、金管の鋭さ（緊迫感、恐怖） ・ヴァイオリン（水しぶき） 5 再度聴いてみる。 6 実際に映像を鑑賞する。（5分） 7 同じ映像で音楽を変えて鑑賞する。 8 感想を伝え合う。	
・CDを最後まで聴かせる ※ 態 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察・ワークシート】 ※ 思 音色、リズム、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。【観察・ワークシート】 ・音符の長さの学習で習った「8分音符」という言葉につなげたい。 ・人が食べられる場面など、グロテスクな場面は外す。 ・生徒が知っている曲で、別の曲を流す。 ・時間を見ながら何名かに発表させる。 ※ 知 想と音楽の構造との関わりについて理解している。【観察・ワークシート】	

《板書例》

強弱 強弱の差が激しい
弱い→強い 遠近感

速度 ゆっくり→速く (くり返しもあり)

リズム 1音が長くて、だんだん速く、スタート・7-7-7-7
1一定のリズム、サマの動き、尾なれ、鑑賞
動きが増えている、心臓の音、8分音符

音の高低 低い→高い(くり返す)
海の深さ→海面へ

音色 低い音の楽器(打楽器も)がよく使われている
鋭い音は、きりした音、迫力が増える
海底→海面

音の量なり
単元の流れ
ユニゾン

対照 反復
対比 和音
言葉

楽器 曲
和音 動
変化(比)
調 変

本日の目標 イメージがもたらす音楽の秘密を探ろう

＜ハッと聴いて感じたこと＞

何が後ろから追かけられている感じ
怖い
悪い人が登場してくる感じ



イメージがもたらす音楽の秘密を探ろう
(仁科掛)

＜どんな感じがした?＞

高い音で緊張感、それぞれ、低い音(大きな怖さの)速く近づいてくる、怖い、新ゴジラ
クレシェンドとテンポアップで背後から迫ってくる、怖い、新ゴジラ

強弱 クレシェンド→緊張感を高めている
+急なクレシェンド 安心して→緊張 誰も気付かない(小さく)

速度 遅く→だんだん速く→Vit. (だんだん速く)→急に速くなる 油断できない
速く 着ている 追いつかなくて →とどまる

リズム 8分音符、人の心をつかむ、あせらせる 打楽器→速く→心拍
左目の音(大きなものがゆっくり動く)

音の高低 低い音(大きな怖さの) 低い音→高音(急)怖い わがっているから怖い
波の変化 エカバカス(7x) 音を現す

音色 (金管) 正体の輪ががはかり (低音) 正体がわからない 低音 低音

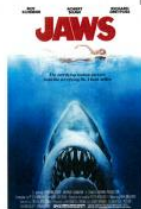


ジョン・ウィリアムズ

○音楽を聴いて、どのような感じがしたのか書きましょう。
ざんちよう感、きょうふ

○どうしてそのように感じたのか、それぞれのポイントと関連付けてまとめましょう。

- ・強弱: 最初は音が小さい→誰も気付いていない、息をひそめて
クレシェンド→緊張感を高めている
+急なクレシェンド 安心して→緊張
- ・速度: 油断ができないくらい
遅く→だんだん速く→Vit. →急に速くなる
遠近感 (だんだん速く)
- ・リズム: 8分音符、人の心をつかむ、あせらせる、
打楽器→速くなる→心拍
- ・音の高低: わがっているから怖い
低い音→高音(急) 音を現す、
波の変化をあらわしている
- ・音色: 打楽器で緊張感が高まる
金管・正体の輪ががはかり (低音) 正体がわからない
低音 正体がわからない



♪音楽がもたらす効果についてわかったこと、感じたことを書こう

音楽がかわると、雰囲気、すごく変わると思いました。
(例えば、緊張感があったのが、楽しい雰囲気になる)
音の速度を場面によって変えることで、雰囲気をつくりだしていることがわかりました。
クレシェンドなどをすると、音の強弱がつけやすいと思いました。
楽器を変えることによって、感じ方がかわることがわかりました。

♪音楽がもたらす効果についてわかったこと、感じたことを書こう

音楽が少し変わっただけでも、映像の雰囲気が変わったり、感じ方が変わったりすることがわかりました。
その場面によって、工夫した音楽にすることで、よりよい映像になることがわかりました。

音楽が違っただけで印象が全く違うなと感じました。
クレシェンドしてテンポもはやくすることで緊張感をもたせたり、逆に弱音でテンポをゆるくにして、さびしい人を安心させたりなど、作曲家はきいている人にもたらす印象を考えながら強弱、速度、リズム、音の高低、音色などを工夫して作曲しているのだとわかりました。
今回は低音が多く、激しく怖い感じの曲だったけど、ゆったりした曲や明るい曲でも、強弱などの5つのポイントから音楽のしなやかさを考えてみたいですね。

映像に「ジョーズ」のような緊張感のある曲をバックミュージックにすると、どんな場面でも怖いことを想像してしまう。でも、逆に華やかな曲やおどろいた曲をバックミュージックにすると、明るいことやほのぼのとした感じのことを想像してしまう。
だから、映画や物語の世界にひきこませて、興味を持たせるためには、その場の場面や内容に合った曲を流したほうが良いと思った。
今日見た映像で、バックミュージックがこの演奏だったときは、食べられるかもしれない恐怖ではなく、サメと人間がたわわにわいているように感じた。
内容がどれだけおもしろくても、バックミュージックでそのおもしろさが音で減るかが決まると思った。